

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	倫理学		
担当者(Instructors)	丹下 悠史	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)
個人や社会の道徳を考察する倫理学について、事例をもとに基礎的な学説を学ぶ。自らの日常生活にある様々な倫理的問題を発見し、問題を整理したり複数ある解決策を検討することができるようになることを目指す。

■ 授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義形式で行う。授業の内容に応じて、ディスカッションおよびグループワークを取り入れる。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	本授業の概要：倫理学とは何をする学問か	倫理学の基礎的な用語や扱う対象について理解し、本講義の見通しを得る。	☐
第2回	私たちは倫理的か？（１）：進化心理学	生物種としての人間の倫理に関する特質を、進化の観点から学ぶ。	☐
第3回	私たちは倫理的か？（２）：道徳心理学	社会事実としての私たちの道徳判断の傾向を、心理学の知見をもとに学ぶ。	☐
第4回	「正しい」判断をどのように決めるか？：応用倫理の知見から	技術倫理や医療倫理といった応用倫理学の分野から、私たちの倫理的判断に何が要請されるかを考察する。	☐
第5回	判断の正当化（１）：社会契約説	私たちの行為を導くもっともな指針を問う規範倫理学の導入として、社会契約説の考え方を学ぶ。	☐
第6回	判断の正当化（２）：義務論	規範倫理学の一分野である、義務論について学ぶ。	☐
第7回	判断の正当化（３）：功利主義	規範倫理学の一分野である、功利主義について学ぶ。	☐
第8回	どのように「善い人」になるのか：徳倫理	「善い人」であること、「有徳」な性格であるとはどのようなことをめぐり、徳倫理の考え方を概観する。	☐
第9回	「善い人」をどのように育てるのか：ケアの倫理	行為や性格でなく、人対人の関係に焦点を当てるケアの倫理について考察する。	☐
第10回	現代社会の倫理的問題（１）：動物の権利	動物愛護や肉食の是非など、動物の権利をめぐる議論をとりあげ検討する。	☐
第11回	現代社会の倫理的問題（２）：生命とテクノロジー	妊娠中絶や安楽死など、命を扱う決定をめぐる議論をとりあげ検討する。	☐
第12回	現代社会の倫理的問題（３）：法と責任	死刑制度を主な対象として、刑罰や責任に関する議論をとりあげ検討する。	☐
第13回	現代社会の倫理的問題（４）：平等と格差	社会における貧富の差やそれを是正する手立てについて、倫理学の視点から議論する。	☐
第14回	現代社会の倫理的問題（５）：人生の意味	人生の目的、幸福な人生や生きるに値する人生はあるかについて、先哲に学び考察する。	☐
第15回	本授業のまとめ	本講義の内容を振り返り、学習の成果と課題を確認する。	☐

■ 授業時間外学習（予習・復習）の内容 (Preparation/review details)
事前学習として、配布資料や参考図書から次回の講義内容に関連する箇所を指定し、当日までに2時間程度の学習（読解・要約）を課す。事後学習として、講義の終わりに提示した問いに対し、配布資料や参考図書を参照して2時間程度で自分なりの解答をまとめることを課す。

■ 課題とフィードバックの方法 (Assignments/feedback)

授業内課題は採点して返却し、次回の授業に解答例と解説を示す。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	倫理学の主要な学説の基礎的な知識を理解し、身近な問題を倫理学の観点から考察することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
30%		0%		70%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回出題する課題の合計点 (5%×14回=70%)

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業の各回に配布する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	赤林朗・児玉聡編『入門・倫理学』勁草書房	
2	児玉聡『実践・倫理学』勁草書房	
3	永井均『倫理とは何か―猫のアインジヒトの挑戦』筑摩書房	
4		
5		